

児童・生徒の現状・課題

- 昨年度の研究成果として他者と関わりながら学習をすすめたり、深めたりすることができる児童が増え、協働的な学習に意欲的に取り組めるようになった。
- 学力調査では全国、東京都共に平均を下回っており、個別の学力の伸び悩みや、基礎学力の定着が課題となっている。そのため児童の実態に即した個別最適な指導方法の工夫と授業改革が必要と考えられる。

学び続ける力を育むための重点目標

- 個別最適な学びを導く
指導方法の工夫

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(9月)	目標(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.2%	82.5%	
②学び方を自分で選び、学習を進めることができる。	81.3%	82.5%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(9月)	目標(1月)
①自分で計画を立てて学習を進める力を育むため手立てを講じたり指導したりしている。	83.4%	85%	
②児童が学び方を選択する場面を設定している。	72.2%	85%	

総括(6月)

本校の学力調査では全国、東京都共に平均を下回っており、個別の学力が伸び悩んでいる現状がある。またMNE調査の結果から、「自ら学習計画を立てたり、学び方を選んだりしたりしている」と自信をもって答えた児童が少ないことが分かった。そのため、授業改革の目標を「個別最適な学びを導く指導方法の工夫」とし、児童に学習計画を立てさせたり、選択する機会を設けたりすることで、児童一人一人の基本的な学力を高めることを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

具体的な手立て①

- 学習計画を立てる

児童が自ら学習内容を調整し、目標を達成したいという意欲をもたせることで、主体的な学びを促し、自信がもてるようになる。

具体的な手立て②

- 選択の場面の設定

児童が自分の興味がある分野や理解しやすい方法・形態を選ぶことで、主体的に学習が進められるようになる。

具体的な手立て③

- 振り返りシートの工夫

児童が学習内容を自己評価することで達成感を育みつつ、自己の課題を明確にし、自律的な学びを促す。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- 研究のクラスマウムをつくり、日々の実践や意見、相談を書き込めるようになる。
- 講師を招き研究テーマについて講演をしていただき、個別最適な指導方法の工夫についての共通認識がもてるようになる。
- 授業観察、校内研究の事前、事後授業などを同じテーマで行い、授業を互いに見合う機会を作る。